

2025年12月15日(月) 近代作家

特別号

近代

作家

上浦幌中学校
2年A組1番
伊場 笑生

生い立ちと作風

夏目漱石の人生

1867年2月9日から
 1916年12月9日
 正午卒
 英文学者。東京都新宿区
 江戸生まれで、東京帝國
 大学を卒業後、教職を経
 テイギリスに留学し、帰
 国後に大学院まで進み、
 卒業後は松山・熊本で教
 師を務めたが、明治
 33年文部省から命じら
 れ英語研究のため2年間
 英國留学をします。
 帰国後、大学講師とな
 りますが、留学中から神
 經衰弱に悩まされていた
 漱石は、気晴らしに文章
 を書くことを虚子に勧め
 られ「吾輩は猫である」
 を執筆、これが人気を得
 し、作家としての道を歩
 み始めます。この頃から
 漱石のもとには多くの開



下生が集い、毎週一不睡
会」と呼ばれる会合が開
かれるようになりました。
明治40年、大学を辞め
東京朝日新聞社に専属作
家として入社し、新聞紙
で、日三四郎、それから
日門、などの連載しまし
た。明治43年、日門を執
筆中に胃潰瘍を患い、軀
地療養先の伊豆修善寺で
大量吐血（一修善寺の大鬼
危篤状態になったものの
一命をとりとめます。
その後、日彼岸場迄
日ころ日道草日など
を発表しますが、大正5

夏目漱石の年表

1916 12月9日死去
1910 大量吐血一時危篤
1907 朝日新聞社に入社
1904 言葉に描く心を発表
以て多数の作品を発表ある。
1903 佐田から中国
東京帝国大学の講師に任ず。
1900 佐田へ留学
1896 熊本第五高等学校講師として起任
境子と結婚
1895 愛媛県尋常中学校に起任
中根境子と見合い、結婚
1893 文科大学卒業/東京師範学校の英語漏誌
1892 東京専門学校の講師となる
1890 文科大学に入学
1889 正岡子規と知り合う/漱石と交友
1888 夏目漱石に復讐
1884 東京大学法学部に入学
1881 存立一中で中退・二松学舎に転校、大学予
備門受験のため成立学舎へ転校
1878 一ツ橋中学に入学
1876 養母 やすと共に夏目家に引き取られる。
1868 塩原家の養子となる。
1867 江戸牛久馬場下横町に生ずる。

年（一九一六）札幌の時
長年走つていた冒瀆癡が
鬼化、「明暗」を未完の
まま残し、早稲圃の家
で亡くなりました。

夏目漱石の作風は、明
治の主流だ。た自然主義
文学から一線を画し、人
間心理の機微、エゴイズ
ム、知識人の孤独などを
風刺やユーモア、詩情を
交えつつ深く描いた点に
特徴があります。初期の
『浮城物語』では描の視点
からの密観描写と人間社
会への皮肉を、吾輩は描
であるなどで見せ、中
期以降は恋愛と倫理、後
期は『則天玄私』の境地
に至る人間探求へと深化
していきました。

夏目漱石の代表作

夏目漱石は、種々な作品を出してました。その中でも、口吾輩は猫であるは、名もなき猫が語り手となり、苦沙弥先生の家に住みつき、人間たちの言動や社会の虚栄、滑稽などを鋭い観察と皮肉で描く、猫の視点から文に描かれて死ぬまでを描いた風刺小説として明治時代の知識人や近代社会の矛盾を映し出している。全体にユーモアがあふつて猫の冷静な視点から作品の魅力を高められていて多

くの人から知られていま
す。二つ目は口坊、ちや
んとといふ作品は、正義
感が強く短歌は東京育ち
の青年が、四国の中学校
に数学教師として赴任し
て、ジャリは俗物教師の不
正や偽善に立ち向かう物
語である。生徒の悪戯に
振り回されながら、曲
かつたことが嫌いな坊っ
ちゃん、盟友の山嵐とカ
を合わせ、真偽は不正を
暴いて懲らしめろ。それ
で教師を糾め、道徳の特つ
東京へ胸を張って帰って
いくといふ物語です。坊

編集後記

この新聞を作つて、夏目漱石の作品や考え方が伝わるように工夫しました。調べていく中で、漱石が人の心の弱みや孤独を大切に描いてゐたことが分かりました。この新聞を通して、御座りませんか。でも、元々、新聞を作るのも、面白いです。